様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１７３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２３１５

研究課題名（和文）バイエルン産業博物館コレクション及び附属マイスター・コースに関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Collection and Meister Course of Bayerisches Gewerbemuseum

研究代表者
針貝　綾（HARIKAI, Aya）

長崎大学・教育学部・教授

研究者番号：７０３４２４２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、ゲルマン国立博物館等における資料調査により、以下の点を確認した。ニュルンベルクのバイエルン産業博物館が、①見本コレクションと手本コレクション、科学技術コレクションの展示を行ったこと、②1897年館長フォン・クラマー設計による新館を完成させたこと、③新館では、万国博覧会などへの出展、新しい図案や図面の作成、新しい技術や素材の研究、特許に関わる手続きの支援など、社会からの様々な要請に対応したこと、④1901年には美術工芸マイスター・コースを新設し、美術工芸の新しい意匠に新風を吹き込んだベーレンスやリーマーシュミート、ハウシュタイン、アドラーら新進芸術家をコース長として招聘したこと。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的な意義は、バイエルン産業博物館新館の機能とそのバイエルン産業博物館史における重要性を再評価した所にある。また、本研究の社会的意義については、美術館・博物館の機能、美術・工芸家の養成制度やリカレント教育、教育普及の在り方を問い、ひとつの参考例を提示する所にあると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The following four items are elucidated through research of documents preserved in the Germanisches Nationalmuseum.
(1)The Bayerisches Gewerbemuseum in Nuremberg had exhibited "Mustersammlung", "Vorbildersammlung" and "Technologische Sammlung". (2)The new building, originally designed by the director Theodor von Krammer, was built in 1897. (3)The Museum had made correspondence in response to the various requests from society, e.g. concerning exhibitions for the World Exposition in Paris, developing of new designs and drawing up plans, studying for new techniques and materials, and supporting for procedures for taking out patent. (4)The Museum founded "Meisterkurs" in 1901, inviting spirited artists, Behrens, Riemerschmid, Haustein and Adler as the director thereof, who inspired new designs of "Kunstgewerbe".

研究分野：人文学

キーワード：バイエルン産業博物館　見本コレクション　手本コレクション　マイスター・コース　ニュルンベルク　テオドール・フォン・クラマー

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、1898 年にミュンヘンで設立された「手工芸連合工房」とドレスデンで設立された「ドイツ工房」の博覧会等を中心とした活動と作品、そしてそれらの工房の図案家たちの美術工芸学校等への工房教育の導入の取り組みについて調査研究を行ってきた。2013 年に筑波大学に提出した博士論文では、ミュンヘンの手工芸連合工房及びドイツ工房と、その主要な図案家たちが初期のドイツ工作連盟において中核的な役割を果たすとともに、バウハウス創設以前に応用自由美術教育実験アトリエ（ミュンヘン）やドイツ手工芸工房附属工芸専門学校および教育工房（ドレスデン）等の教育施設に工房教育の導入を試みていたことを確認した。

次に、19 世紀ドイツにおける公的な教育機関での美術工芸マイスターの養成例として、研究代表者が注目したのがニュルンベルクのバイエルン産業博物館附属マイスター･コースである。リヒャルト・リーマーシュミートとペーター・ベーレンスが同マイスター・コースに招聘されたことと、彼らが手工芸連合工房からかなり早い段階で離脱したこと、さらにシュトゥットガルトのヴュルテンベルク王立美術工芸学校への実験工房の附設に因果関係があるのではないかと研究代表者は見ており、その仮説の解明も本研究に着手する動機のひとつとなっている。

バイエルン産業博物館とベーレンスの美術工芸マイスター・コースにおける活動についての主な先行研究としては、1980 年に国立ゲルマン博物館で開催された『ペーター・ベーレンスとニュルンベルク』展カタログ、19 世紀のバイエルン産業博物館の活動についてまとめられた論文としてはジルヴィア・グラゼルの「美術工芸と工業。ニュルンベルクのバイエルン産業博物館の創設」（2005 年）、世紀転換期のバイエルン産業博物館と美術工芸マイスター・コース、その生徒たちと彼らの作品を紹介したカタログとしては、クラウス・ペーゼの『ニュルンベルクのユーゲントシュティル』（2007 年）などがある。

２．研究の目的

本研究の目的は、1900 年頃のニュルンベルクのバイエルン産業博物館の美術工芸マイスター・コースとコレクションの調査研究を通して、19 世紀後半から 20 世紀初頭のドイツにおける美術工芸のマイスター養成制度と産業博物館コレクション史の一端を究明しようとするものであった。具体的には、まずバイエルン産業博物館のコレクションがどのような方針の下に収集され、どのような内容のものであったのかを整理すること。次に、附属マイスター・コースの教育目的や担当教員ごとの授業内容を検討するとともに、同コースの生徒たちの作品と、コレクションとの関係を明らかにすること、さらに 1900 年頃の産業博物館において、マイスター教育が盛んに行われた理由を明らかにすることを目指した。

３．研究の方法

2015 年夏にニュルンベルクのゲルマン国立博物館附属図書室で調査を行ったところ、少なくとも 1900 年にはニュルンベルクのバイエルン産業博物館に美術工芸マイスター・コース（Kunstgewerbliche Meisterkurse）が附設され、同コースでの制作作品とバイエルン産業博物館のコレクションに意匠上の近似性があることが判明した。そこで、まず本研究では産業博物館の見本コレクション（Mustersammlung）と手本コレクション（Vorbildersammlung）、附属美術工芸マイスター・コース、さらには新館について、資料と作品の調査を行うこととした。

４．研究成果

先行研究を踏まえ、博物館等での調査、研究により以下のことが明らかになった。

(1) 沿革とコレクション

バイエルン産業博物館は、1869 年ニュルンベルクに設立された。同博物館は、当初「産業の発展、とりわけ国の生産品の製造を、形の美しさと技術の完璧さに関して支援すること」を目的として、見本コレクションと手本コレクション、そして科学技術コレクションを展示した（注1）。見本コレクションは家具部門、金属部門、陶磁器部門等に分かれていた。講演室ではコレクションや新しい意匠、技術に関する講演が行われた他、手本コレクション室には意匠データが、図書室には産業に関する技術や意匠等に関する書籍や雑誌が閲覧に供された。手本コレクションは、もともと石膏像などの立体模型も含む古今東西の美術工芸の意匠のデータベースであり、生産者のために閲覧に供されるだけでなく、学校に貸し出されるなどして、教育普及に活用されていた。

(2) 新館と博物館機能の拡充

バイエルン産業博物館独自の建物の建設については、設立当初の 1869 年には計画が始まったが、計画が承認されたのは 1891 年。時の館長テオドール・フォン・クラマーの設計による新館が完成したのは 1897 年になってからのことであった。

『バイエルン産業博物館ニュルンベルク新館開場回想録』（1897 年）によれば、1897 年に完成したバイエルン産業博物館新館は、博物館の各部門の延べ床面積が旧館のそれの２倍以上に広がって施設の機能が充実することにより、旧館が抱えていた諸問題を解決し、新しい時代の課題への対応が可能になった（注 2）。新しい時代の課題とは、新しい産業の成果を見本コレクションで展示することに加え、パリ万国博覧会など博覧会への出展や、新しい図案や図面などの作成、新しい技術や素材の研究、特許に関わる手続きの支援など、社会からの要請に対応することであった。

バイエルン産業博物館の後継となるゲルマン国立博物館は、現在この新館を使用していないが、建物は現存しており、産業博物館時代の面影を伝えていることを研究代表者は確認した。

(3) マイスター・コースと監督

新館完成後、バイエルン産業博物館は 1901 年に手工業者のためのマイスター・コースと美術工芸マイスター・コースを新設。館長フォン・クラマー肝いりの美術工芸マイスター・コースには新進気鋭の美術工芸家が招聘され、新しい様式、意匠の教育が行われた。

ベーレンスやリーマーシュミート、パウル・ハウシュタインの監督下で、受講者たちは監督らの作品やバイエルン産業博物館のコレクションを手本としながら新たな意匠の創出を試み、多くの機能主義的なユーゲントシュティル作品を生み出した。ベーレンスとリーマーシュミートの下では小品の制作が中心に行われたが、ハウシュタインの下では装飾品の制作が増え、フリードリッヒ・アードラーの下では豪華な装飾品が共同で制作された。

館長フォン・クラマーが思い描いていたように、ベーレンス、リーマーシュミート、ハウシュタインら近代美術工芸運動の先駆者たちの助力を得て、美術工芸マイスター・コースの受講者たちはまさに歴史的な様式や伝統的な手法から脱却し、新しい様式と意匠の創出を試み、ニュルンベルクの美術工芸を刷新した。

手工芸連合工房の図案家であったハウシュタインについては、現存する作品が少ないためか、

これまで展覧会等でその業績がまだ十分に検証されているとは言えない。しかし、今回の調査により、ハウシュタインはシュトゥットガルトのヴュルテンベルク美術工芸学校附属教育実験工房で教鞭をとりながら、バイエルン産業博物館附属美術工芸マイスター・コースでも美術工芸教育を行い、当時美術工芸家としてだけでなく、教育者としても評価されていたことが判ってきた。

また、ミュンヘンの自由応用美術教育実験アトリエ、通称デプシツ・シューレの最初の生徒であったアードラーも、手工芸連合工房の初期の重要な図案家ヘルマン・オプリストやヴィルヘルム・フォン・デプシツの教育理念を受け継ぐ者として、その教育理念が注目される。しかし、アードラーの教育理念や作品については、当時の詳細な資料や先行研究がほとんどなく、今後の研究による解明が期待される。

バイエルン産業博物館に関する資料調査に際しては様々な困難に遭遇した。例えば附属マイスター・コースの Lehrplan は、ゲルマン国立博物館附属図書館が所蔵しているはずだが、現在所在不明である。そのため、カリキュラムについては、年次報告書以上の詳細を明らかにし、検討することができなかった。資料の紛失は大変残念である。今後の研究の進展に期待したい。

＜注＞

(1) Bayerisches Gewerbemuseum zu Nürnberg, *Denkschrift über das Projekt eines Neubaues des Bayerischen Gewerbemuseums zu Nürnberg*, Nürnberg, 1891（ページ数記載なし）.

(2) Bayerisches Gewerbemuseum zu Nürnberg, *Denkschrift zur Erinnerung an die Eröffnung des Neubaues des Bayerischen Gewerbemuseums Nürnberg am 19. Juni 1897*, Nürnberg: G. P. J. Bieling-Dietz, 1897.

＜主要参考文献＞

-Bayerisches Gewerbemuseum in Nürnberg, *Bericht für das Jahr 1901*, Nürnberg, 1901.

-*Peter Behrens und Nürnberg*, Prestel-Verlag, München, 1980.

-Silvia Glaser, “Kunstgewerbe und Industrie. Die Gründung des bayerischen Gewerbemuseums in Nürnberg”, *Frankenland*, Nr. 57, 2005, S. 267-278.

-Claus Pese, *Jugendstil aus Nürnberg*, Arnoldsche, Stuttgart, 2007.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２件）

① 針貝綾、ニュルンベルクのバイエルン産業博物館新館と 1900 年頃のコレクションの構成について、長崎大学教育学部紀要、査読無、第 5 集、2019 年、73-86

② 針貝綾、ニュルンベルクのバイエルン産業博物館の歴史と附属美術工芸マイスター・コースのあゆみ、長崎大学教育学部紀要、査読無、第 3 集、2017 年、273-286

〔図書〕（計１件）

① 針貝綾、九州大学出版会、ユーゲントシュティルからドイツ工作連盟へ—世紀転換期ドイツの美術工芸工房と教育、2017 年、390

６．研究組織

なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。